

# 代替医療

最新ガイド

免疫細胞を活性化させた  
り、数を増やしたりして、がんを攻撃する治療法をがんの免疫療法といっています。

がん患者の皆さんが利用している健康食品の多くも、動物実験などでは免疫細胞を活性化させることが分かっていますので、広い意味ではがんの免疫療法と言えるかもしれません。しかし、ほとんどの健康食品は、抗がん効果がヒトの臨床試験で証明されていません。ですから、市販されている健康食品をがんの免疫療法の範囲に入れることは、時期尚早と思われれます。



大野 智 現在までのところ、健康食品でがんが消失したり、

後半から医薬品として使われているキノコ由来成分があります。カワラタケ成分のクレスチン、シイタケ抽出物のレンチナン、スエヒロタケ抽出物のソニフィランです。クレスチンとレンチナンは、抗がん剤との併用で生存期間の延長効果などが臨床試験で証明されています。

しかし現在、保険適応となるがんの種類は、他の抗がん剤との併用を前提に、クレスチンが胃がん・大腸がん・肺がん、レンチナンが胃がんのみと限定されています。

一方、ソニフィランは、子宮頸がんにおける放射線療法の効果を増強する作用が知られています。

そのほかにも、免疫細胞を活性化させる医薬品として、

結核菌由来のBCG、溶連菌

由来のピシバニールなど細菌由来の成分や、インターフェロンやインターロイキンなど免疫細胞を直接活性化させる成分も一部のがんに治療として用いられています。

ご存じのように、わが国では、「免疫力を上げる」といった漠然としたキーワードを用いて、さまざまな健康食品が製造販売されています。そして、暗に抗がん効果を連想させようとしているのかもしれない。

しかし、繰り返しますが、縮小したり、また、手術後の再発が抑制されたり、生存が延長されたりしたということをヒトで証明した報告は極めて少ないのが現状です。

その一方、基礎免疫学の発展に伴い、1980年代後半から、がんの免疫療法は、体から取り出した免疫細胞を直接活性化し、数を数百倍に増やした後、再び体に戻す免疫細胞療法が脚光を浴びるようになりました。現在、大学病院などで高度先進医療として行われている一方、自由診療として複数の病院やクリニックでも行われています。

しかし、書籍やインターネットでは、免疫細胞療法に關しても、その治療効果を誇張したり、逆に完全に否定したりする情報が見受けられますので注意が必要です。

次回は、免疫細胞療法など先進医療としてのがん免疫療法の現状と問題点を解説します。

(金沢大学補完代替医療学 特任助教授)

久富 教授  
シイタケ (太田 金沢大学 提供)

